

釧路湿原国立公園

釧路湿原は、1987 年 7 月 31 日、日本の 28 番目の国立公園に指定されました。こうした国立公園への指定には、自然環境の保全という目的があります。釧路湿原国立公園は、日本最大の湿地である釧路湿原、周辺の陵丘や湖沼を含み、釧路市、標茶町、釧路町、鶴居村の市町村にまたがる合計 28,788 ヘクタールの面積を有しています。この公園の景観は、日本では類例のない特徴を有しています。河川が、ヨシやスゲ、ハンノキが茂る広大な湿原を蛇行しています。そしてその高度に保存されたありのままの自然は、多様な動植物の種の理想的な生息地となっています。タンチョウ、シマフクロウ、キタキツネ、イトウといった希少な動物が生息し、その中の湿地には、部分的に腐敗した植物でできた土が層となっている、日本最大の泥炭地帯が存在します。野生生物や植物だけでなく、人間も計り知れない恩恵を受けている「宝」のようなこの自然環境を保護するために、多くのことが行われてきました。1980 年には、釧路湿原の 5,012 ヘクタールの区域が、水鳥の生息地としての役割を果たす国際的に重要な湿地であると認識され、ラムサール登録湿地に指定されました。この指定区域は 1999 年、7,863 ヘクタールに拡大されました。